

令和2年度

# 第58回 越馬徳治科学賞 表彰状授与及び助成金交付式

日時 令和3年2月17日(水)  
13:30～14:30

式場 石川県教員総合研修センター大研修室

## 式次第

- 1 開式のことば
- 2 表彰状及び記念品等授与  
個人表彰  
功労者表彰  
学校表彰
- 3 助成金交付  
学校助成  
研究機関助成
- 4 表彰状授与及び奨励金交付  
研究奨励
- 5 あいさつ  
石川県科学教育振興会会長 菱 沼 捷 二
- 6 来賓祝辞  
石川県教育委員会教育長 徳 田 博
- 7 受賞者代表謝辞
- 8 閉式のことば

主催 石川県科学教育振興会  
共催 石川県教育委員会

# 受賞者等の紹介

## 1 個人表彰

金沢市立犀桜小学校 教諭 平木 貴裕

金沢市立弥生小学校を初任に、同夕日寺小学校、津幡町立中条小学校、金沢市立新豎町小学校を経て現在に至る。研究面では、全国環境学習フェアや全国小学校理科教育研究会石川大会等での発表実績がある。指導面では、金沢子ども科学財団児童科学教室指導員、津幡町まちなか科学館児童科学クラブ教室講師として児童の指導にあたりるとともに、日本宇宙少年団金沢南ディスカバリー分団リーダー、いしかわ「宇宙の学校」指導員等を務めた。また、理科の学習編集委員、金沢市教職員研修理科実技講師、金沢市小学校教育研究会理科部会運営委員等を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

金沢市立西南部中学校 教諭 奥野 智之

金沢市立緑中学校を初任に、同城南中学校、野々市市立野々市中学校を経て現在に至る。研究面では、「主体的に学習に取り組む態度の育成」をテーマに全国中学校理科教育研究会での研究発表や、石川県理科教育研究大会等での発表がある。指導面では、理科担当教員として、金沢市小・中学校児童生徒科学研究作品展や石川県児童・生徒科学作品コンクール等への出品啓発と指導にあたりるとともに、高峰賞応募生徒への研究指導にあたった。また、石川県理科教育研究大会運営委員等を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

金沢大学人間社会学域  
学校教育学類附属高等学校 教諭 渡會 兼也

京都大学基礎物理学研究所勤務、大阪教育大学勤務、金沢大学教育学部附属高等学校を経て現在に至る。研究面では、武田科学振興財団「中学校・高等学校理科教育振興助成」を2度、科学研究費助成事業「奨励研究補助金」、下中記念財団「下中科学研究助成金」を2度、パナソニック教育財団「実践研究助成」、越馬徳治科学教育研究奨励等の受賞や、それらに関連し多数の論文を発表している。指導面では、理科担当教員として、神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞努力賞受賞生徒の指導にあたった。また、日本物理教育学会評議員、日本天文教育普及研究会編集委員を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

## 2 功労者表彰

金沢市立不動寺小学校 校長 山岸 朋子

金沢市立弥生小学校を初任に、同四十万小学校、同三馬小学校、金沢大学教育学部附属小学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校、金沢市立中央小学校、同三馬小学校指導教諭、同主幹教諭、同泉野小学校教頭を経て現在に至る。研究面では、越馬徳治科学教育研究奨励の受賞や、京都大学学校教育研究フェスタ等での実践発表がある。指導面では、金沢子ども科学財団児童科学教室泉教室室長として、児童への指導にあたった。また、「理科の学習」編集責任者、金沢市小学校教育研究会理科部会副部長等を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

石川県立金沢商業高等学校 校長 中本 忠彦

石川県立富来高等学校を初任に、同内灘高等学校、同小松高等学校、石川県教育センター研修企画課指導主事、石川県教育委員会事務局学校指導課指導主事、同庶務課専門員、同主幹、同課長補佐、同学校指導課課長補佐、石川県教育センター企画調査課担当課長、同教育相談課長、同企画調査課長、石川県立金沢泉丘高等学校通信制教頭、同野々市明倫高等学校副校長、石川県教育委員会学校指導課担当課長を経て現在に至る。研究面では、越馬徳治科学教育研究奨励、メディア教育振興会教育メディアコンテスト大賞・パナソニック賞、石川県高等学校視聴覚教育研究会会長賞等の受賞、石川県高等学校教育研究会理化部会等での発表、石川県教育工学研究会寄稿論文の執筆等がある。また、石川県高等学校教育研究会生物部会部会長を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

### 3 学校表彰

#### 金沢市立夕日寺小学校

(校長 的場茂樹)

当校は、学校の周囲の自然環境を生かして、児童の科学する心を育む学校として、様々な実践を行ってきた。例えば、夏季休業中には理科室を開放し自由研究の相談日を設けたりするなど、理科研究を奨励し、3年生以上の児童が一人一研究に取り組むよう指導してきた。その結果として、石川県児童・生徒科学作品コンクールでは、数多くの受賞者を輩出している。また、学校研究として、主体的な学びにつながる単元構成と課題設定の工夫に重点を置いて取り組んできた。その過程で独自教材の開発にも取り組み、各学年単位・低中高学年の分科会単位で様々な独自教材を開発し、実践授業を行ってきた。また、金沢市教育委員会「学校ベーシックカリキュラム実践推進事業」の指定を受け、理科の授業について公開研究発表会を行い、成果が認められている。

#### 金沢市立高尾台中学校

(校長 中村健一)

当校は、開校以来、科学に取り組む多くの生徒をサポートし、理科研究を奨励している。夏季休業中は、研究のための実験器具等の貸し出しや指導を行っている。その結果として、児童・生徒科学研究作品展には過去3年間(H29～R1)で22名が応募しており、優秀4点、優良2点、佳良2点、入選2点に加え、石川県児童・生徒科学作品コンクール優秀賞3点の受賞者を排出しており、高峰賞(H30、授賞式代表発表)、日本学生科学賞石川県審査優秀賞(R1)等を受賞している。また、理科室を整備し、生徒が自分で必要な実験器具を用意して実験をするなど、生徒が主体となって取り組めるようにしている。さらに、『学び合い』を通して、考察を交流するなどの主体的で対話的な授業を行い、能動的な理科学習を実現できるようにしている。

#### 石川県立七尾高等学校

(校長 山口和人)

当校は、理数科の設置(S43)や、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定(H16)を受けるなど、地域の理数教育の中心的役割を担うとともに、多くの科学技術系人材の育成を行っている。SSHでは、生徒の科学に対する興味関心の向上、先端科学知識の理解、研究スキルの修得、そして自ら活動する意欲の喚起を目指した取組が行われている。特に過去10年においては課題研究の成果が著しい。全国高等学校総合文化祭では、平成24年度より石川県代表として、のべ14グループが出場している。北信越地区高等学校自然科学部研究発表会では優秀賞(H30、H31)、ベストプレゼンテーション賞(H29、H31)を受賞している。また、研究内容を評価され、大阪大学蛋白質研究所セミナーで招待発表を行うなど、科学研究において多方面より高い評価を継続して得ている。

### 4 学校助成

#### 金沢市立泉小学校

(校長 石田浩一)

#### 金沢市立泉中学校

(校長 由井力)

#### 石川県立金沢二水高等学校

(校長 稲葉幹雄)

令和3年度に金沢市で開催する、第58回石川県理科教育研究大会の公開授業担当校として、小・中・高をつなぐ理科教育を積極的に推進している。

## 5 研究機関助成

### 石川県教員総合研修センター

(所長 藤井直樹)

科学教育の充実に向け、科学教育担当教員の指導力・実験力向上のための研修を実施し、科学教育の振興・発展に努めている。

## 6 研究奨励 (※は研究代表者)

[奨励賞]

理科における効果的な『学び合い』の授業実践：

モデルとAR教材を用いて生徒の思考を深める

金沢市立高尾台中学校教諭 浅見 拓真

「世界レベルの衛生管理」を身につける実践的教育システムの構築

～教育機関初「JFS-B規格」適合証明合格～

石川県立翠星高等学校教諭 安川 三和\*

石川県立翠星高等学校教諭 西前 辰郎

石川県立翠星高等学校教諭 川端 伸

### 越馬徳治科学賞について

#### 1 趣旨

昭和38(1963)年7月、石川県科学教育振興会の発足と同時に、優れた理科教員を顕彰するとともに本県科学教育の振興を期して、初代会長越馬徳治氏(津田駒工業株式会社 第2代社長)の「サイエンスなき国は滅び、これをおろそかにした県は衰える」という理念のもとに設立された。現在、津田駒工業(株)をはじめ、地域企業の支援のもと運営されている。

#### 2 表彰・助成・奨励

- (1) 理科教育の振興に努力し、その進展に顕著な業績をあげた教員の表彰
- (2) 理科教育の推進に功績のあった教員の表彰
- (3) 児童・生徒の科学研究活動にすぐれた成果をあげた学校の表彰
- (4) 小・中・高をつなぐ理科教育を積極的に推進している学校への助成
- (5) 科学教育に関する研究所等への助成
- (6) 科学教育担当教員の研究並びに教育機関に属する個人及びグループの研究への奨励

#### 3 過去の教員表彰者数

上記(1)・(2)について令和2年度を含めた総数は、423名に上る。

その内訳は、小学校169名、中学校132名、高等学校122名である。